

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300068
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームあかり(すばる)
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成23年11月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ehime-kaigokouhyou.jp
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・広々とした、開放的な環境の中で生活できる。デッキを通じて2ユニットの利用者同士の交流が図れている。また、担当ユニットだけでなく他ユニットの利用者の特性も把握に努め、全職員が支援にあたっている。職員研修の充実化を図っている。全職員が必要と思われる物や希望に沿って研修を受けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ユニットをつなぐデッキは、利用者同士の交流の場にもなっていてテーブルやいす等もあり、ネット越しにはゴルフ場が眺められ、ゴルフに来るお客さんとおしゃべりすることもよくある。 ●施設長や管理者は、職員からの提案を聞き取り、「まずはやってみよう」と職員の意欲を応援しておられる。又、職員は利用者から希望が聞かれた時には「どのようにしたら叶うか」ということを考えて、管理者等に提案しておられ、事業所全体で利用者の意欲を引き出せるようなサポートをされている。 ●利用者との会話の中で「行ってみたい」「～はどうなっているかなあ」「帰りたいたい」というようなお話が聞かれた時には、即「行ってみる」ことを支援できるよう努めておられる。居間の窓から見える山を眺めて「あの丸山に行ってみたい」と希望されたことがきっかけで職員と出かけられ、懐かしいお話等も聞かれたようだ。
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホームあかり

(ユニット名)

すばる

記入者(管理者)

氏 名

渡部 和美

評価完了日

H23.11.1

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 各ユニットごとに職員全員で自分たちが目指している介護理 念を作り、実践に努めている。年度末に見直しをし、継続し た。また理念は、職員の目の届く場所に掲示している。	
			(外部評価) 事業所開設時に職員で話し合い「共に生きる」と理念を作成 され、ユニットごとに目標も決めて理念の実践に取り組んで おられる。職員は、利用者一人ひとりのことをよく知ること に努め、個々の喜びや楽しみの機会を作ったり、又、悲しみや 寂しさに寄り添いたいと話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 町内で催される夏祭りや運動会等に出掛け、地域の方や保 育園児とも交流を図っている。 運営推進会議にも地域の方に参加いただいている。 “あかりだより”を、職員と利用者が一緒に近所へ配り、日頃 の声かけを大切にしている。	
			(外部評価) 近くの保育園の園児達の訪問があった際に、利用者が園児 達の姿に感激して涙し喜ばれたことから、その後も散歩中 に立ち寄ってくれるようになった。園児達は、事業所で飼っ ているかめをみるのも楽しみになっているようだ。小学校の美 化委員の児童が花の苗を持って来てくれ、大切に植えてお られる。秋祭りの際には、牛鬼が事業所に来たのを見に近所 の方が来られたり、「感謝祭」でいも炊きをされた際にも近く の方が参加してくださった。	さらに、地域の方から「回覧板で事業所便りを回すこともでき ます」と言っていただき、今月末から地区の方達に回してもら うことになっている。事業所は、事業所便りや運営推進会議 を通じて、地域の方達やご家族にも、認知症についてさらに 知ってもらいたいと考えておられる。又、事業所は外部の方 の力をお借りして、利用者の楽しみや喜びを増やしていきたい と取り組んでおられ、百人一首が得意な利用者と相手して くださる方を探す等、利用者がいろいろな人とかわりながら 暮らしていけるよう、さらにネットワークを拡げていかれてほし い。又、いざという時の協力体制作りにも取り組んでいかれ てほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 利用者と一緒に地域行事に参加し、理解を得ている。 また、地域の人に場所を提供したり、反対にボランティアの 人の声かけなどして頂いている。民生委員さんを通じて、地 域の一人暮らしの高齢者の方へいつでも見学や訪問が可 能であることをパンフレットでお知らせし、受け入れ態勢があ る事を伝えて頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			2ヶ月に一度開催しており、地域の方や家族、行政、地域包括支援センターの方、また地域のグループホームの職員の方の意見をいただき、取り入れている。	
			(外部評価)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時にメンバーの方から「地区の高齢者がホームのことを気にしている」という情報をいただき、さっそく事業所のパンフレットとともに「いつでも来てほしい」ということと「迎えに行く」ことを手紙にして配られた。これまでは事業所の現況を報告する会議であったが、今後は「認知症について知っていただけるような会議」となるようすすめていきたいと事業所では考えておられる。	
			(自己評価)	
			広報紙や運営推進会議の報告書は、速やかに市町村担当者へ届けて近況を伝え、また時に市役所担当者より指示を仰いでいる。 運営推進会議への参加を協力いただいている。 また事業所は、市のグループホーム連絡会へ参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(外部評価)	
			市のボランティア募集に参加し、利用者の将棋の相手を探して、来ていただいたこともある。利用者の成年後見人の方が毎月ご本人の様子を見に来てくださっている。介護相談員の方が来られた際には、利用者のお話を聞いてくださっている。	
			(自己評価)	
			研修を受け身体拘束について理解している。 夜間以外は施錠を行っておらず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			外部研修や事業所での新人研修の際に身体拘束について勉強されたり、又、管理者は「食事を強制するのも拘束になることもある」等、日々のケアの場面を捉えて職員に拘束について伝え、職員で意識を統一して取り組めるようにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新任者への研修を実施し、全員虐待防止については理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、後見人制度を利用されている方がおられ、権利擁護については理解している。また、制度利用が必要となった場合は支援できる連携体制がとれている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、十分に時間をとり丁寧に説明し、理解していただけるように心がけている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 要望に対してはできるだけ早く対応し、日々の暮らしや運営に反映させている。また、家族会を発足し意見をお聞きしたり、ご意見箱を設置している。 介護相談員さんの訪問の機会があり、第三者的に利用者の意見を汲む機会がある。 (外部評価) ご家族の来訪時には、いすやお茶をお出しして、ゆっくりしていただけるように気配りをされている。又、職員は、利用者ご本人のことについて気付いたことを伝えるように取り組んでおられ、ご家族との連絡のやり取りは日誌に記入して申し送るようになっている。家族会では、事業所の敷地の草引きをお願いされており、8月の家族会時には15名ほどのご家族が協力してくださった。ご家族には、毎月の書類とともに、事業所便りと利用者個別に現況を記した手紙を添え、報告されている。さらに運営推進会議の内容や外部評価等、事業所を良くするための取り組みについても報告するようになっている。事業所便りには、事業所を利用してのご家族の感想を載せている号もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングで職員の意見を聞き、運営に反映させている。また、定期的にリーダー会を開催している。 月1回のユニット会を利用して、職員が提案できる機会を設けている。	
			(外部評価) 施設長や管理者は、職員からの提案を聞き取り、「まずはやってみよう」と職員の意欲を応援しておられる。又、職員は利用者から希望が聞かれた時には「どのようにしたら叶うか」ということを考えて、管理者等に提案しておられ、事業所全体で利用者の意欲を引き出せるようなサポートをされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 基準配置以上の体制がとられ、職員は各自が勤務評価を行ない提出し、上司は努力を認めている。 代表者による緊急時対応ができ、夜勤帯の安心感につながっている。また、休憩とリフレッシュ休暇の設置により、身体的に負担がかからず配慮されている。	
			(外部評価) 多くの研修に参加する機会があり、報告会で皆で内容の共有を図ることができている。 資格を取るよう働きかけていただいている。新任者研修計画に沿って実践している。また、職業訓練校より研修生を受け入れており、教えることも学びの一つになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の相互研修に参加し、サービスの向上に努めている。 運営推進会議の参加を通じて交流を図っている。	
			(外部評価) ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申し込みの際、施設見学をしてもらっている。 面接時に生活歴や要望を聞き、職員で共有している。 入所当初は本人が不安にならないよう、できるだけ傍にいて本人の希望をよく聞く。 トイレの場所がわかるよう掲示している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学をしてもらっている。 家族の要望に合わせて、不安が強い時には食事の提供やソファベッドの提供を行ない、泊まっていただくこともある。 居室の希望にはできるだけ対応している。 入所当初、家族へのこまめな報告に努めている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の要望を聞いて、ケアプランに取り入れて支援している。 利用していたデイサービスの方に面会に出かけたり、かかりつけ医との連携を取っている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理や掃除などしていただき、職員が利用者に感謝を伝えながら生活し、関係を築いている。下膳や洗濯物たたみ等できることはしていただいている。	
19		○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホーム内での行事に参加していただき、関係を築いている。 受診の付き添いや外出など、できる範囲で家族に協力していただいている。 また、面会時にできるだけ家族と会話したり、状況を伝えたりして、来ていただきやすいよう努めている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービス事業者より面会の来られたり、行ったりしている。行きつけの理容院を利用したり、自宅へ帰って庭の花を持って帰ったりしている。 また電話の対応や年賀状、手紙を出すなどの支援で、関係が途切れないようにしている。 (外部評価) 保育園児が来てくれて、歌を歌いながら亥の子を打ってくれた際には、利用者はとても懐かしがられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 難聴がある利用者同士の会話の橋渡しをし、関わられるよう支援している。また関わり難い時には声かけをしたり、傍に寄り添って対応している。 利用者の性格や特性を把握し、トラブルが起きないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所しても入院が長引いている方を見舞ったり、家族の要望で治療について相談に乗ったりしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月ユニット会にて各担当者がモニタリングを発表している。センター方式を取り入れ、本人の思いや意向の把握に努めている。また、日々の会話の中で一人ひとりの思いを把握し、担当職員が中心となって支援している。 ご家族にもお伝えしている。	
			(外部評価) 管理者は「利用者の思いを大切に」と職員に日々話しておられる。職員が利用者とかかわることは多いが、「ゆっくりお話する機会が少ないのではないかと感じておられ、事業所では「利用者個々で一日5分はお話する」ことに取り組んでおられる。職員は、利用者の表情等をしっかり観察して「喜んでおられるか」「関心がありませんか」「つまらないそうか」等をみながら対応をされている。	事業所では、利用者ご本人の希望をもとに介護計画を作成しておられる。さらに、利用者やご家族から得た情報を収集するツールを工夫して、利用者のニーズの把握に努められ、利用者のその人らしい暮らしを支えるための介護計画の作成につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 必要に応じて家族の方にも生活歴をお聞きしたり、入所当初に本人・家族やケアマネジャーから情報を得るようにしている。 できるだけ会話し、新しい情報はシートに記入している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 大まかな1日の流れはあるが、本人の体調やリズムに合わせて支援している。24時間シートで状態の変化については見逃さないよう細かく記録したり、共有できるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			月1回のユニット会でモニタリングを報告し、職員全員で検討会を開き、課題の把握とケアのあり方について話し合っている。担当者が6ヶ月毎にアセスメントし、本人・家族と事前に話し合い、プラン作成をしている。	
			(外部評価)	
			「利用者のできること」に目を向け、「できることを続けられる」よう介護計画の作成に取り組んでおられる。計画は6ヶ月ごとに見直しをしておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			介護計画の実践を個別の記録に残し、1日の中で取り組むことができるようにしている。また、新たな課題が出てきた時には随時話し合いを行ない、介護計画を見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			面会時等希望により家族の食事も提供をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			ボランティアの方に来ていただき歌や踊りを披露してもらい、利用者もその輪の中に入り、楽しんでいる。 神社への初詣、秋祭り等地域に出て、多くの人達と触れ合う機会がある。保育園や小学校への行事に出向き楽しんだりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医は非常に協力的で、看取りまで安心して支援できる。施設での情報提供をしたり、受診に同行して相談するなど、かかりつけ医との連携は取れている。	
			(外部評価) 協力医はいつでも駆け付けてくれるようになっている。利用者の薬の調整中は、管理者が看護師資格を有する職員がご家族とともに利用者に行き、医師に普段の状態を伝えたり相談されており、状態が安定するまで同行されている。事業所へは、協力医の往診日の予定や協力歯科医にも協力を得て、先生の写真とメッセージを載せておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師1名、准看護師2名おり、常に介護職と看護職が情報を共有し、利用者一人一人が安心して暮らせるよう努めている。 看護職員は各ユニットにそれぞれ配属されているが、相互に対応できるようにしており、体調面の変化はまず看護職に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には施設での生活状況等の情報提供を行ない、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後の注意事項の指導を受けている。 また、入院中はできるだけ面会に行き、ご本人の精神的フォローに当たっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 体調の変化時に家族に面会を依頼し、今後の対応について相談している。 医療連携における連携連絡体制を整えている。 家族との話し合いを常に行なうよう心がけている。	
			(外部評価) ご本人の希望とご家族の協力も得て、事業所では初めて看取りを経験された。利用者は最期、目を瞑って静かにしておられる日が多かったが、ある朝、職員が居室を訪問するとご本人が目を開けておられ、職員の手を握ってくださったことに職員は感動されたようだ。職員は利用者の方からとても多くのことを学ばれた。さらに、利用者もそれぞれにその方の居室を訪ねられ、体をさすってさし上げる等して見舞われた。管理者は「経験することの大切さ」を感じておられ、今後も、利用者・ご家族の希望に応じて、ご家族と方針を共有し、支援に取り組みたいと話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、救命講習を受講している。 緊急時の対応マニュアルを整備している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練(地震災害を含む)を実施し、対応できるよう全職員が理解しているが、地域との協力体制は十分ではない。 保存食の整備をしている。 (外部評価) 運営推進会議時、避難訓練を行い、メンバーの方に見ていただき、感想や意見をうかがった。夜間、停電になった際には周りが真っ暗になるということもあり、事業所内は足元に灯りが点くようになっているが、さらに事業所の庭やデッキに非常灯を設置することを予定されていた。さらに、事業所付近は、土砂崩れ警報が出たこともあり、今後さらに利用者や職員の安全に向けて対策を検討していかれてほしい。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりをよく理解し個性を尊重し、違いを把握した上で個別の接し方や、ケアの方法に気をつけている。 自己決定を尊重し、利用者の誇りを傷つけないようにしている。 (外部評価) 利用者のこれまでの暮らしの中で、経験されたこと等も踏まえて話題等にも配慮されている。利用者個々が活躍できる場面を作ることに努めておられ、若い職員が食事を作る時には、利用者から手伝いを申し出てくださったり、教えてくださり、職員を助けてくださるようだ。又、男性利用者は、荷物を持ってくさったり、女性にはやさしく紳士に接してくさるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉かけを工夫することで思いなどを引き出したり、会話の中から本人の希望を聞き出すよう努めている。また、希望があった時には叶えられるよう支援し、出来る限り自己決定して頂けるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 意向を聞きながら、その人のペースで暮らせるよう支援して いるが、入浴時間等職員の都合になる事がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 洋服選びの相談に乗ったり、髭剃りの声かけをしている。剃 り残しがある時には、職員が支援している。 定期的に散髪など行なっている。毛染めの支援や夏に浴衣 を着る機会を設けたりした。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の嗜好に合わせた献立を取り入れることがある。 利用者と職員と一緒に食事し、ゆったり食事できるよう配慮 している。 食事の準備や片付け、食器拭き等できることをしていただい ている。 (外部評価) 調査訪問時には、魚屋さんが来ていて、利用者が魚を選ん でおられた。又、エプロンを着けて台所で職員と食事の準備 をしている様子もみられた。男性利用者も料理が得意な方も おられ、職員と料理を作っておられる。パン屋さんも来てく れるようで、利用者はお好きなパンを選んだり、朝食に食べる パンを買っておられる。食事は、利用者感想等もお聞きし ながら職員と利用者は同じものを食べておられ、ご飯のお代 わりをすすめられたり、お茶のお代わりを男性の利用者が注 いで回ってくださり、職員のお湯のみにも注いでくださり、職 員は利用者笑顔でお礼を言っておられた。利用者同士の 関係性等も踏まえてテーブル席を決めて、利用者が落ち着 いて食事できるようにされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 全職員でメニュー作成にあたっている。夏場にはお茶の時 間を増やして脱水予防に努めたり、必要に応じて水分量の 把握と尿量の確認をしている。 また、利用者の特徴に合わせて水分や栄養が摂れるよう、食 事内容を検討している。自ら進んでお茶が飲めるようセッテ ィングしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 歯科医の訪問診療がある。食後声かけし、口腔ケアを実施 し、できない人には介助している。 歯科医の口腔ケアプランにより、必要な支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は車いすの方も、トイレでの排泄介助をしている。しぐさや動作を見てトイレ誘導の声かけをしている。 排泄の記録により、排泄パターンを把握している。また、デッキや外にいる時に、外から入れるようにトイレを設置している。	
			(外部評価) カーテンで仕切ったトイレと個室のトイレがある。又、庭からも使用できるようになっている。ご自宅でポータブルトイレを使用されていた方は、ポータブルトイレがあることが安心感につながるようなこともあり、設置して朝起床時に使用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 朝一番に水や牛乳を飲んでいただいたり、普段から水分補給や繊維質の多い食材を提供し、調整している。 排泄の記録により、便秘の方には医師の指示により服薬等を行ない、コントロールしている。リハビリ体操や散歩で運動できるよう働きかけている。	
			(外部評価) 毎日常声かけし、利用者の希望や意志を尊重している。 タイミングをみながら声かけし、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。ADLの低下した方でも浴槽につかれるようリフトを設置している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日常声かけし、利用者の希望や意志を尊重している。 タイミングをみながら声かけし、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。ADLの低下した方でも浴槽につかれるようリフトを設置している。	
			(外部評価) 大きめの浴槽ではあるが、踏み台を浴槽の中に入れて利用者が手すりを持って浴槽に入れるようにされている。車いすを使用されている方は、リフトを使用して入浴できるような設備も整備されている。毎日入浴される方もおられ、入浴を嫌がるような日には、無理強いせず、次の日にお誘いしてみる等して、利用者は週に3回は入浴できるよう支援されている。 入浴しないような日には、足浴を支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう気をつけながら、室温や明かり、空気の乾燥の調整をしている。 日中気分よく生活できるよう、一人ひとりに合わせて休息の時間を作り、休んでいただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護職員により服薬の準備をし、処方箋をファイルに閉じ、内容が確認できるようにしている。担当者も服薬セットし、2重にチェックしている。 また変更については、日誌に記入し、職員に周知徹底している。 服薬の支援は個々に応じて行なっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物やドライブ、陶芸教室や水墨画等でその人の楽しみな事で気分転換をしていただけるよう支援している。また、2ユニット一緒にカラオケやおやつ作りなどをして楽しんでいただいている。一人一人の仕事として出来る事をして頂いたり、荷物運びや畑仕事、水やりなどできることで役割を持ていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域行事や買い物、希望があればできるだけ出掛けられるよう支援している。自宅へ行かれる方もいらっしゃる。 普段から外出の機会が多い。 また、家族の協力のもと、本人の希望の場所へ出かけられている。 (外部評価) 利用者との会話の中で「行ってみたい」「～はどうなっているかなあ」「帰りたい」というようなお話が聞かれた時には、即「行ってみる」ことを支援できるよう努めておられる。居間の窓から見える山を眺めて「あの丸山に行ってみたい」と希望されたことがきっかけで職員と出かけられ、懐かしいお話等も聞かれたようだ。さらに、高速道路ができているのをみて「こんなんもできとんか」と驚き、新しい情報も知ることができ、ご本人はとても喜ばれたようだ。お天気の良い日には、急きょお弁当を持って出かけることもある。若年の利用者の方は歩いて買い物に出かけたり、運動会等、小学校の行事を見学に行かれた際には、行きは車で出かけて、帰りは歩いて帰る等されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出の際ほしいものを自分で買われ、支払っている。 小遣いを持たれることで安心感につながることもあるため、自分で小額の小遣いを持っている方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時は事務所の電話を使い、電話をかけるお手伝いをしている。 また、家族と手紙のやりとりや返信ができるよう支援している。 年賀状を出したい人へ出せるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を玄関に飾ったり、飾り付けをして季節感のある掲示物の工夫に努めている。玄関前の花壇や裏庭に花や野菜を植えて、季節感を取り入れている。デッキを通じてどこからも行き来できるようになっている。立て簾やサンシェードにより光を調整したり空気清浄機やトイレ専用の足元暖房機により居心地の良い環境作りを心がけている。	
			(外部評価) 台所のカウンターは広い造りになっていて、職員と一緒に食事する方もみられた。又、職員が食事を作っている時にも座ってお話をされていた。廊下の突き当たりには図書コーナーを作っておられ、利用者の興味のありそうな本が準備されている。調査訪問時には、座って本を広げておられる利用者の様子がみられた。玄関にイスを複数配し、座って履物を履いたり、他の利用者待つ際にもちょっと座られるようにされている。ユニットをつなぐデッキは、利用者同士の交流の場にもなっていてテーブルやイス等もあり、ネット越しにはゴルフ場が眺められ、ゴルフに来るお客さんとおしゃべりすることもよくある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 図書コーナーの設置により、興味のある方が一人ゆっくり楽しめる空間になっている。リビングのテーブルで仲の良い方同士で会話したり、思い思いにソファでトランプ占いをされたりテレビを楽しんだりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスや本人が使いやすいテレビ・タンス・テーブル・ソファなど持って来られ、使っている。また、電気のスイッチが届きやすいよう、ご自分で毛糸を編んで紐をつけている。家族の書かれた絵画や自分の好きな歌手の写真を飾られている方もいる。	
			(外部評価) 居室からもデッキに出られるようになっており、耳が聞こえにくい方は、お好きな番組はボリュームをあげて居室のテレビで楽しまれている。お菓子缶にご自分で買ったお菓子を入れてあり、食後等に楽しむ方もいる。洗面台が全室に設置されていて、食後には自室に戻って歯磨きをされる様子もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室に目印を付けたり、表示をしている。本人の力に合わせて部屋割を考えている。手すり・スロープ等の工夫をしたり、居室に専用の洗面所がある。	